

授業科目	看護と統計	学年	1
		単位	1
時期	後期	時間	15
科目設定理由	科学的根拠に基づく看護（EBN）における根拠を導き出す手法が統計である。間違った情報に基づいて看護を実践しないためにも統計学の基礎的知識は必要である。また、日常的に存在する疑問の解決や物事を判断する手段として統計解析の考え方は必須である。しかし、統計解析を理解していないと情報を鵜呑みにしてしまい惑わされることにもなりかねない。本科目では、正しい情報を得るために統計を理解し、研究成果を看護実践に活用できる力を養う。		
目的	研究成果を活用するために必要な統計の基礎的知識を学ぶ		
目標	1.統計データの種類を理解する 2.統計の基本的な検定を理解する 3.Excelを用いてデータを整理できる		
評価方法	筆記試験90点 レポート10点		
使用テキスト	<系統看護学講座基礎分野>統計学：医学書院 <系統看護学講座基礎分野>看護情報学：医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	統計の基礎	統計の重要性を理解する	統計とは 記述統計・推測統計 調査・研究と統計学	講義	
2	統計データの種類とまとめ方	統計データの種類を理解する	統計データの種類 統計データのまとめ方 統計データのグラフ表示	講義	
3		Excelを用いてデータ集計し適切なグラフを作成する	エクセルの操作 データ収集と集計 グラフの作成	演習	
4	Excelによる統計解析	統計の信頼性を確保するために用いられる方法の種類を理解する	確率と分布 母集団・標本と推定 各種検定	講義	
5		Excelを用いて検定の操作を行う	エクセルの活用 事例を用いた検定の実際	演習	
6	保健統計の基礎	保健衛生統計の目的を理解する	おもな統計資料 国の統計、地方自治体の統計、世界的な統計	演習	
7	統計データの活用	研究のデータをクリティークする	研究データのクリティーク	演習	
8	テスト				

授業科目	論理的思考	学年	1
		単位	1
時期	前期	時間	30
科目設定理由	医療福祉チームは共通の目標達成に向けてそれぞれの力をの相乗効果が求められる。その過程では何が問題か見極め、看護の立場から説明・提案し、時には交渉が必要となる。そこに必要な筋道の通った考え方、論理的思考である。本科目では論理的な物事の考え方を学び、相手の理解が得られるような手法で効率よく物事を進めるための手段を学び、看護の力を発揮できる能力を養う。		
目的	問題解決と他者に効果的に伝える手法について学ぶ		
目標	1.論理的な思考プロセスを理解する。 2.問題を明確にし解決するための手法を理解する。 3.論理的な文章を書く。 4.他者への提案と交渉の手法を理解する。 5.効果的に伝えるための手段を理解する。 6.論理的に物事を考える。		
評価方法	課題によるパフォーマンス評価		
使用テキスト	必要に応じて資料配布		
参考図書	参考資料の一覧を配布します		

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	論理的に思考する	論理的に考えるプロセスを理解する	帰納法の3段階	講義	パワーポイント使用
2		論理的に考える手法を理解する	演繹法の3段階	講義	パワーポイント使用
3		論理的に考える手法を理解する	批判精神とMECE	講義	パワーポイント使用
4		論理的に考える手法を理解する	論理的思考の視覚化	講義	パワーポイント使用
5	問題解決策を探る	問題を明らかにする手法を理解する	問題発見の2段階	講義	パワーポイント使用
6		原因を明らかにする手法を理解する	原因分析の2段階	講義	パワーポイント使用
7		問題を解決するための手法を学ぶ	トラブル・問題解決の場面での実践	演習	パワーポイント使用
8	論理的な文章を書く	論理的な文章の書き方を理解する	レポートの書き方、帰納法でネタを探す	講義	パワーポイント使用
9		論理的に文章を読む	演繹法で課題を読む	講義	パワーポイント使用
10		論理的に文章を書く	文書整理、内容と文字を膨らませる・減らす、書く	講義	パワーポイント使用
11	交渉で使う論理的スキル	交渉のスキルを身につける	交渉を効果的に行う	講義・演習	パワーポイント使用
12	会議スムーズに進める	会議の参加の仕方を理解する	会議に主体的参加させる、意見をまとめる、進行	講義	パワーポイント使用
13		会議の進め方を理解する	テーマに基づき会議を行う	演習	パワーポイント使用
14	発言・プレゼンテーション	効果的に相手に伝える手法を理解する	言語的メッセージ・非言語的メッセージ	講義	パワーポイント使用
15	論理的思考の実践	実践的に課題を解決する	課題に対するパフォーマンスの評価	演習	

授業科目	看護と情報Ⅰ（医療における情報システム）	学年	1
		単位	1
時期	後期	時間	15
科目設定理由	看護師は対象の最も近いところに存在し、得られる情報によって看護を展開していく。情報は多職種とコミュニケーションによって共有し対象へコミュニケーションによって伝えていく。このように看護には「情報」と「コミュニケーション」が必要不可欠である。情報通信技術（ICT）は看護の専門性を発揮するには有益な存在である。しかし情報は対象の利益にもなるが扱いを誤れば害をもたらす。したがって本科目では、対象の情報を安全に活用するために、情報とは何か、活かし方と守り方学ぶ。		
目的	情報の安全な活用を学ぶ		
目標	1.情報とは何かを理解する 2.情報倫理を理解する 3.情報セキュリティーを理解する 4.医療や看護における情報の活用を理解する 5.情報モラルを自ら考え判断できる自律性を養う		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	<系統看護学講座基礎分野>看護情報学：医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	情報と情報化社会	情報の定義と特徴を理解する	情報の定義と特徴 社会と情報	講義	
2	情報と倫理	情報倫理と医療倫理を理解する	情報倫理と医療倫理 患者の権利と情報 個人情報の保護	講義	
3	コンピューターリテラシーとセキュリティー	コンピュータの仕組みと使い方を理解する	コンピューターに関する基礎知識 インターネットに関する基礎知識と注意点	講義	
4	保健医療と情報	医療における情報の活用を理解する	医療における情報 エビデンスに基づいた保健医療 ヘルスプロモーションと情報	講義	
5	看護と情報	看護における情報の活用を理解する	看護における情報 情報社会と看護	講義	
6	医療における情報システム	医療における情報の記録とネットワークでの活用を理解する	医療における情報の記録 医療情報システムと記録の仕方 地域医療福祉のネットワークと情報システム	講義	
7	医療における情報システムの実際	医療における情報記録の実際を理解する	電子カルテシステムの操作	演習	
8	テスト				

授業科目	教育	学年	1
		単位	1
時期	前期	時間	15
科目設定理由	看護師は主体的な学習による自己研鑽が必要である。看護の初学者も自ら学ぶ姿勢を持つことが重要である。また、省察的実践者として働き続けるには看護基礎教育の段階でその思考を芽生えさせておくことが必要である。そのためには教育や学習とは何かを理解したうえで、ビジョンを持ち、ゴールを設定し、リフレクションを実施しながら自己の成長へつなげていく体験が重要である。本科目は、教育・学習・評価・リフレクション・ポートフォリオの知識を身につける科目として位置づける。教育に関する知識は患者教育に役立つ。そして教科外活動の総合学習においてポートフォリオを活用していく。		
目的	社会の営みの一つである教育について理解し、自己研鑽をするための考え方や手法を学ぶ		
目標	1.学習について理解する 2.意図的な指導を理解する 3.効果的な指導を理解する 4.学習を評価するための方法を理解する 5.ポートフォリオの目的と方法を理解する 6.リフレクション学習を理解する 7.主体的に学ぶ姿勢を養う		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト			
参考図書	<系統看護学講座基礎分野>教育学：医学書院		

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	ポートフォリオとは	1)学習について理解する 2)ポートフォリオについて理解する学習について理解する	①学習とは、教える、学ぶの関係 ②プロジェクト学習とポートフォリオ	講義・演習	
2	教育を成り立たせるもの	教育について理解する	①教授（人を教えるということ） ②訓育（他者とのかかわりを導く） ③養育（教育の受け手を見守る） ④発達（教育を受けて成長する）	講義	
3	指導を設計する	意図的な指導を学ぶ	①指導者の役割と姿勢 ②学習の特徴 ③認知療育の学習 ④精神運動領域の学習 ⑤情意領域の学習 ⑥指導を設計する ⑦学習目標の設定	講義・演習	
4.5	効果的に指導する	効果的に指導する方法を学ぶ	①効果的な指導とは ②指導の型	講義・演習	
6	学習を評価する	学習を評価するための理論と方法を学ぶ	①評価の目的 ②評価の構成要素 ③評価計画	講義・演習	
7	リフレクションとは	リフレクションについて理解する	①リフレクションの意義 ②リフレクション学習のステップ	講義・演習	
8	テスト				

授業科目	心理学	学年	1
		単位	1
時期	前期	時間	30
科目設定理由	「こころ」は人として成り立つ上で重要な側面である。目に見えない部分であり、自分自身の「こころ」の状態もつかみにくい。対象の「こころ」に触れる看護や感情労働といわれる看護職にとって「こころ」のしくみや働きを知ることは必要不可欠である。本科目では人間理解を深めるために心理学の基礎を学ぶ。		
目的	自己理解・対象理解を深めるために「こころ」のしくみや働きを学ぶ		
目標	1.心理学について理解する 2.こころの作用とその過程を理解する 3.こころの作用の結果としてもたらす反応や行動を理解する 4.こころの問題と対処の知見を広げる		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	<系統看護学講座基礎分野>心理学：医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	心理学の問題	心理学の問題を理解する	心理学の問題 心理学とは	講義	
2	知覚の心理	知覚の心理を理解する	知覚の心理 感覚と知覚	講義	
3	記憶の心理	記憶の心理を理解する	記憶の心理 記憶	講義	
4.5	思考・想像・言語の心理 知能の心理と知能検査	思考・想像・言語の心理を理解する 知能の心理を理解する 自己のストレスに対する反応・対処の傾向を知る	思考・想像・言語の心理 知能の心理と知能検査	講義	
6	学習の心理	学習の心理を理解する	学習の心理	講義	
7.8	感情・情緒・情操の心理	感情・情緒・情操の心理を理解する	感情・情緒・情操の心理	講義	
9 10	性格の心理と性格検査	性格の心理を理解する 性格検査を行い、自己理解を深める	性格の心理と性格検査	講義	
11	集団の心理	集団の心理を理解する	集団の心理	講義	
12	発達心理①	発達心理を理解する	発達心理①	講義	
13	発達心理②	発達心理を理解する	発達心理②	講義	
14	発達心理③	発達心理を理解する	発達心理③	講義	
15	まとめ				

授業科目	人間関係論	学年	1
		単位	1
時期	後期	時間	30
科目設定理由	看護職にとって人間関係を築くことは、その職務の前提であり中心である。多様化する社会の中では、対象のもつ価値観や期待を理解し尊重することはますます重要であり、相手の思いや考えなどを理解するとともに、専門職として必要な情報提供や説明を行い、チームで協働してケアを提供していくための合意と人間関係を築いていくための態度や能力が求められる。本科目では人間関係の理解を深め、よりよい関係をつくるための視点やスキルを学ぶ。		
目的	対象や保健医療福祉チームの一員として援助的関係・信頼関係を形成していくための理論を学ぶ。よりよい人間関係を築くための理論を学ぶ		
目標	1.人間関係の理解するための基礎となる心理学の概念や理論を学ぶ 2.他者を理解し、人間関係形成に役立つ理論と技法を学ぶ 3.保健医療においてどのような人間関係が重要であるか考える 4.人間関係を豊かなものにしようとする姿勢を養う		
評価方法	レポート		
使用テキスト	<系統看護学講座基礎分野>人間関係論：医学書院		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	人間関係の中の自己と他者	間係的存在としての人間について学ぶ	人間の存在と人間関係について	講義	
2	対人関係と役割	対人関係の成立と葛藤について学ぶ	対人関係の成立、対人関係の維持と崩壊、対人葛藤と対処	講義・演習	
3	対人関係と役割	対人関係の成立と葛藤について学ぶ	対人関係の成立、対人関係の維持と崩壊、対人葛藤と対処	講義・演習	
4	態度と対人行動	人の態度・意図・行動変容に関わる理論やモデルを学ぶ	態度と態度変化、説得的コミュニケーション、攻撃、援助	講義・演習	
5	集団と個人	集団を理解するうえで重要な特性を学ぶ	集団の特性、集団での課題遂行、集団での問題解決と意思決定、リーダーシップ	講義・演習	
6	集団と個人	集団を理解するうえで重要な特性を学ぶ	集団の特性、集団での課題遂行、集団での問題解決と意思決定、リーダーシップ	演習	
7	コミュニケーション	コミュニケーションのしくみを学ぶ	コミュニケーションとは、対人コミュニケーション、ICTの発達とコミュニケーション	講義	
8		コミュニケーションの実際を学ぶ	意図的コミュニケーション	演習	
9	カウンセリングと心理療法	カウンセリング・心理療法の種類とその方法を学ぶ	カウンセリング・心理療法の理論とスキル、看護への応用	講義 演習	
10	カウンセリングと心理療法	カウンセリング・心理療法の種類とその方法を学ぶ	カウンセリング・心理療法の理論とスキル、看護への応用	講義 演習	
11	カウンセリングの実際	カウンセリング・心理療法の種類とその方法を学ぶ	カウンセリング・心理療法の理論とスキル、看護への応用	演習	
12	カウンセリングの実際	カウンセリング・心理療法の種類とその方法を学ぶ	カウンセリング・心理療法の理論とスキル、看護への応用	演習	
13	コーチング	コーチングスキルの種類とその方法を学ぶ	コーチングの理論とスキル、看護への応用	講義	
14	アサーティブコミュニケーション	アサーティブコミュニケーションとはどのようなものか学ぶ	アサーティブコミュニケーション理論とスキル、看護への応用	講義	
15	医療看護と心理	患者と看護師の相互作用過程を考察する	対人援助職とは 患者と看護師の相互作用 権力勾配、ハラスメント、DV	講義	

授業科目	文化と生活	学年	1
		単位	1
時期	前期	時間	15
科目設定理由	地域でくらす人々を理解するためには、その地域の文化や歴史、環境の理解が欠かせない。また、地域社会に貢献する看護師を育成するには、地域社会に関心を向け、特徴を理解することが重要である。本科目では地域の保健医療福祉の現状を理解する基礎として郷土の理解と関心を深める。		
目的	住みよい郷土のづくりのために地域社会を理解し、環境・自然・風土・文化と生活のかかわりを考える		
目標	1. 私たちの生活する地域の歴史と文化を理解する 2. 住みよいふるさとづくりのための取り組みを理解する 3. 私たちの暮らしを支える地元の産業について理解する 4. 暮らしを支える市民活動について理解する 5. 自分自身の暮らす地域の関心を高める 6. 対象の暮らす地域を理解する姿勢を養う		
評価方法	レポート		
使用テキスト	必要に応じて資料配布		
参考図書	<系統看護学講座基礎分野>文化人類学：医学書院		

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	郡山の歴史	郡山市の生活のもととなる地理について理解する	①郡山の歴史地理	講義・演習	
2		江戸時代の郡山の歴史について理解を深める	①宿場町郡山の賑わい		
3		戊辰戦争下の郡山について理解を深める	①郡山地域の戊辰戦争		
4		郡山の発展につながる水の歴史を理解する	①安積疎水と安積開拓を考える		
5	郡山市のまちづくり	ふるさとへの関心を深める	郡山市の歴史とまちづくり ①郡山市の成り立ちと魅力 ②復興および未来に向けた取り組み ③人口減少時代に向けた取り組み	講義	
6	ふくしまをけん引する郡山の産業の未来	人々の暮らしを支える産業の理解を深める	郡山市の産業の特徴と未来、郡山の産業と経済の関係 ①商工業を取り巻く現状と課題 ②これからの産業のまちづくり ③産業振興に向けた取り組み	講義	
7	地域を元気にする市民活動 ～みんなで進める協働のまちづくり～	市民活動の実際を理解する	①協働のまちづくりについて ②NPOについて ③町内会、自治会について ④郡山市の協働・市民活動の事例	講義	
8	郡山の民話	対象の文化的背景を理解するための一助とする	①郡山市と周辺地域の文化的特徴、風習、方言等	講話	

授業科目	生活科学	学年	1
		単位	1
時期	後期	時間	30
科目設定理由	衣食住は人間の生活において中心をなす。本科目では衣食住を中心に住宅と環境の共生、食生活における食品の化学物質と健康、衣服と環境について考え、社会・自然環境が人間の健康に及ぼす影響について学ぶ。		
目的	衣食住を中心に人間の生活と環境の関係について学ぶ		
目標	1.人間の生活の中心である衣食住を科学的に理解する 2.環境が人間の環境に影響を及ぼすことを理解する 3.人間の生活を整えることが健康障害予防につながることを理解する 4.自らの生活に関心を寄せる姿勢を養う		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	必要に応じて資料配布		
参考図書			

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	社会の変化と生活への影響	社会の変化と生活への影響を理解する	1.生活の基盤としての衣食住 1)社会の変化と生活への影響	講義	
2	環境問題と生活との関連	環境問題と生活との関連について理解する	1.生活の基盤としての衣食住 2)環境問題と生活との関連	講義	
3	ライフスタイルと衣食住	ライフスタイルと衣食住について理解する	1.生活の基盤としての衣食住 3)ライフスタイルと衣食住	講義	
4	衣服の素材	繊維の特性と着心地について理解する	2.衣の生活科学 1)衣服の素材	講義	
5	快適な衣環境	衣服の快適性について理解する	2.衣の生活科学 2)快適な衣環境	講義	
6	健康と衣服	健康を維持するための衣服の役割について理解する	2.衣の生活科学 3)健康と衣服	講義	
7	現代人の食生活	日本人の食生活の変化について理解する	3.食の生活科学 1)現代人の食生活	講義	
8	食生活と健康	日本人の食生活と健康の関連について理解する	3.食の生活科学 2)食生活と健康	講義	
9	生活習慣病と食事	生活習慣病と食事の関係について理解する	3.食の生活科学 3)生活習慣病と食事	講義	
10	現代人の暮らしと住まい	日本の気候風土と住まいの関係について理解する	4.住の生活科学 1)現代人の暮らしと住まい	講義	
11	建材と健康	健康な室内環境について理解する	4.住の生活科学 2)建材と健康	講義	
12	バリアフリーと住宅	高齢者が安全・安心に住むことができる町づくり、家づくりについて理解する	4.住の生活科学 3)バリアフリーと住宅	講義	
13	世界が抱える環境問題	健康で快適な生活環境の要件について考える	5.世界の環境問題 1)地球温暖化と健康問題 2)生態系の変化が人間に及ぼす影響 3)資源制約とゴミ問題	講義	
14	健康で快適な生活環境の要件	健康で快適な生活環境の要件について考える	6.学習の整理と展望 1)現代人のライフスタイルの特徴 2)健康で快適な生活環境の要件	講義	
15	テスト				



授業科目	現代社会学	学年	1
		単位	1
時期	前期	時間	30
科目設定理由	私たちは社会の中で生まれ死をむかえる。社会は私たちの生活を豊かにする一方で私たちの生活を規制したり強制したりする。その中で生涯社会集団と関わり続ける。本科目では、そのような社会の中で一人ひとりの人が生きていくとはいかなることなのか、生まれてから死ぬまでいかに多くの社会と関わり、どんな豊かな可能性や現実・困難があるのかを考える。		
目的	人生をたどるうえで避けて通ることのできない社会的課題の解決に向けた手がかりを学ぶ。		
目標	1.多文化、多様化した現代社会を読み解き今日の社会的課題を理解する 2.今日の社会的課題をどのように解決すればよいか自己の考えをもつ 3.社会の一員としての自覚と責任を養う		
評価方法	課題解決の演習に対する評価		
使用テキスト	生きることの社会学 -人生をたどる12章- 川田 耕 (世界思想社)		
参考図書	章末に参考図書になる「さらに学ぶための本」が明記されています。		

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	社会学を学ぶにあたって	社会学を学ぶ意義を理解し、本講義を履修する姿勢をつくる。	社会学を学ぶ必要性を理解する。テキストの目次と内容をしっかり確認する。	講義	
2	社会とは何か	テキストの構成を理解し、社会的動物としてのあり方を学ぶ。	個人と社会との関係を理解する。個人の社会化とは何か考える。	講義	
3	出生をめぐる社会学	出生をめぐる今日的課題を理解する。	生まれるまえ、生まれるとき、生まれたあと、それぞれの課題を理解し、考察する。	講義	
4	妊娠中絶を考える	妊娠中絶の実態を理解し、出生をめぐる課題を考える。	妊娠中絶の現状を把握する。妊娠中絶の是非をディベート形式で議論する。	K P 法 ディベート	
5	家族の歴史社会学	家族の歴史を学び、家族を取り巻く今日的課題を理解する。	母系家族、父系家族とは何か理解する。今日的課題を要約し、理解する。	講義	
6	親子の心理・社会学	母子関係と今日的親子関係の課題を理解する。	母子愛着・信頼感とは何か理解する。親子関係の変質について理解する。	K P 法 講義	
7	学校と国家の政治社会学	家庭と学校の役割の変遷を理解する。	学校の社会化とは何か理解する。公的機関としての学校の役割を考える。	K P 法 講義	
8	成長における幻想と文化	人間の成長とは何か、成長のメカニズムを理解する。	成長における同一化とは何か理解する。欲望と自我の関係を考える。	K P 法 講義	
9	攻撃性の社会学	人間の持つ攻撃性の本質と課題を理解する。	人間の攻撃性の特性を理解し、虐待・いじめなど今日的社会問題について考える。	K P 法 講義	
10	性愛と社会	思春期、恋愛、結婚の各ステージでの課題を理解する。	結婚すること、しないこと。それぞれのメリット・デメリットを考察し、ディベートする。	K P 法	
11	働くことと生きること	人はなぜ働くのか、自分の言葉で表現できるようにする。	労働の意義を理解する。資本主義社会における労働のあり方を理解する。	ディベート 講義	
12	老いゆく日々と社会	高齢社会の現状と課題を理解する。	老いの文化・心理を理解する。老いによる社会的位置を考える。	K P 法 講義	
13	死と社会	死を取り巻く今日的課題、家族と社会のあり方を考える。	宗教の意義と命の尊厳について考える。延命治療の是非を考える。	K P 法 講義	
14	これからの社会	未来社会を生きる自らのあり方と社会的責任について考える。	人間と社会の関係について改めて考えを整理し、自らの存在意義を自覚することができる。	K P 法	
15	課題演習	社会的課題を自ら考察し、アウトプットする。	今日的課題に対して、現状と課題、解決の手立てを考察し、課題解決を図る演習を実践する。	演習	

授業科目	倫理	学年	1
		単位	1
時期	後期	時間	15
科目設定理由	哲学的思考を深めるために、その一領域である倫理学から教材を選び、考えるヒントを学ぶ。K P 法、ディベートなどアクティブラーニングの手法を用いて、実践的思考力と表現力を養成する。		
目的	倫理的判断を行うための基本的考え方を学ぶ		
目標	1.倫理的課題に気づく 2.倫理的な考え方を理解する 3.倫理的課題解決のために何をすべきか考える 4.倫理的課題解決のための対話を実践する 5.倫理的態度を養う		
評価方法	課題演習に対する評価		
使用テキスト	「プレップ倫理学 増補版」 柘植尚則（弘文堂）		
参考図書	講義の中で紹介します。		

	主題・単元	授業のねらい	授業内容	授業方法	備考
1	倫理学とは	倫理とは何かについて理解する	倫理とは何か、人間はどう生き、社会はどうあるべきか考え、理解する。	講義	
2	幸福	幸福とは何か考える	何が幸福であり、どの幸福を選ぶか考え、社会の幸福と個人の幸福のあり方を理解する。	講義 K P 法	
3	義務	義務とは何か考える	人間の尊厳とは何か考え、義務と幸福の関係を理解する。	講義 K P 法	
4	徳 道徳判断 道徳	徳とは何か考える 道徳判断の方法と特性を考える 道徳はどうあるべきか考える	徳の倫理について考える。 道徳判断は客観的か考え、善と悪の存在を理解する。 なぜ道徳的であるべきか考え、道徳と利益の関係を理解する。	講義	
5	自己と他者	自己と他者の関係を考える	自己の主体性と他者のために生きることの関係を考え、理解する。	講義	
6	個人と社会	市民社会における生き方を考える。	市民の社会とは何か理解し、平等な社会の実現について考える。	講義	
7	正義、自由、平等	正義、自由、平等のあり方を考える。	正義、自由、平等とは何か考え、共同体における正義のあり方を理解する。	講義	
8	まとめと評価	倫理の課題とは何か	倫理学における課題とは何かということを復習し、具体的な倫理的課題を考察する。	演習と評価	